

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200200
法人名	株式会社宮城登米広域介護サービス
事業所名	グループホーム憩いの里かがの
所在地	宮城県登米市中田町石森字加賀野二丁目26番地2
自己評価作成日	平成30年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階よこびある
訪問調査日	平成30年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の一角にあり、食堂まへのウッドデッキが道路に面しており、通学する小学生や路上でキャッチボールする子どもたちの姿や声が聞かれます。また、犬の散歩等で通る地域の方々といさつを交わしたり、ホームの畑づくりを周りの方々からお手伝いや指導を受けたりしております。特に、ホームの周りの8名の方々が防災協力隊として、有事の際の協力を得、毎年合同で防災訓練を実施し、地域の方々の温かく見守られております。開設して6年を経過し、平均年齢や介護度等が高くなってきており、認知症、転倒予防の体操や歌唱、レクリエーションを毎日行っています。また、新聞の拾い読みや懐かしい歌や映像を鑑賞して思い出話し等の回想、職員もご利用者の生きてきた時代を理解するツールとなり、より良い関係づくりに繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道路に面したウッドデッキで、子供と挨拶を交わし、散歩に来る秋田犬は入居者の人気者で毎日楽しみに待っている。区長、民生委員を含む近隣住民8名が防災協力隊となり訓練に参加する等関係は良好である。共用型通所介護を開所して4年半になる。最初は入居者共に様々な不安があったが、話し合いを重ね実践を繰り返して、今では会話も弾み、笑顔で生活する仲間となった。これまでの様子を、今年の県グループホーム協議会の実践報告会で管理者が発表している。全体会議時に運営理念「地域と共に、家族と共に、笑顔と共に、喜びある暮らしを」と事業所方針、ユニット理念を読みあげ、日々のケアに活かすよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム憩いの里かがの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初、職員全員で話し合って掲げた理念を定例のサービス会議の冒頭に確認してから、会議に臨んでいる。	定例会議で経営理念と事業所方針、ユニット理念を読みあげ、確認をしている。年1回は振り返りの話し合いをしている。入居者一人ひとりの行動、言動等をよく理解し、明るく笑顔で接する事を実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設近隣の防災協力員の方々、畑の耕耘や作業指導をして下さる方、また毎日犬の散歩途中に寄って下さる方と日常的に交流がなされている。	市の花いっぱい運動で配られた花を玄関先に植えている。近隣住民が災害用自動通報装置に登録している。ウッドデッキで毎日子供たちや散歩の人とおしゃべり、犬と振れあう等地域住民との関係は良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型の通所介護事業を行い、地域の方々の支援を行っている。同町内の方が6名利用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を経て地域区長さんからの呼びかけで防災協力委員の協力体勢を確立し、定例の防災訓練等を実施している。評価への取り組みについても報告し、意見を頂いている。	市長寿課職員、地域包括職員、区長、民生委員等がメンバーとなり、ホームの報告をし、意見交換をしている。区長より「応援が必要な時はいつでも声をかけて」と言われた。家族参加の呼びかけをして頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議に福祉事務所および包括支援センターの職員が参加頂き、活動状況を報告、助言指導を頂いている。	介護保険や生保関係の諸手続き等担当職員に相談し、助言を得ている。包括支援センター主催のネットワーク会議やケア会議等に参加している。鹿島台研修センターでの研修にも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の施錠は、防犯上夜間は施錠しているが、それ以外は玄関はもとより、食堂や居室等解錠している。飛び出し等については、見守りと行動を把握し、またセンサーを使用してその都度対応している。	身体拘束適正化検討委員会を立ち上げ、委員会でやるべき内容を話し合っている。毎月のサービス会議の中で2回研修会を実施した。転倒防止のため、居室にセンサーを使用している方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はもとより、不適切なケアについても話し合い、会議の際に研修したり、カンファレンス等を通じてBPSDの理解を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社で開催される社内研修にて、社長から日常生活自立支援事業についての講義を受け、利用者個々について、カンファレンス等で必要に応じて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の説明は、懇切丁寧を旨とし、重要事項説明書等を用いて説明を行い、その後に於いても、不安や疑問点について説明を行い、何でも話せる関係づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料を現金で領収し、月1回は面会に来ていただくきっかけを作り、その際に生活の様子や健康面について説明し、併せて意見や要望を伺っている。	面会時に「かがのだより」を渡し、食堂に飾ってある作品、写真を通じて近況を報告し話し合っている。「足に浮腫がある。入浴回数を増やしてほしい」との要望に毎日足浴、マッサージをして対応した。浮腫は軽減した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年末に全社員が社長に直接意見や要望を書面で提出する仕組みがある。また、月例のサービス会議において、会社の方針や施設の運営状況を伝えて意見を聴取し、会社全体の会議にて報告している。	サービス会議は、デイサービスに来る方も含めたケアに関する話し合いをしている。年2回人事考課の際に管理者と個別面談があり、自己評価に基づき話し合っている。職員の研修参加、資格取得を奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全社員が正社員として雇用し、退職金制度を設けている。また、年に2回の人事考課を実施、その結果を各職員へフィードバックし、賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全職員対象に社内研修会を実施している。また、宮城県介護研修センター等の外部研修の受講、その後の伝達研修等を事業所内で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	教育研修室が組織され、法人全体の研修会を企画実施し、毎月定例開催して全社員が受講できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅時の生活状況や家族関係、現在抱えている問題や不安、こだわり等を日常の会話や表情、行動を理解し、どのような生活を望んでいるのかを把握して、その人らしい生活に近づけるため、一緒に考えられる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在困っていることや不安なこと、またどのような関係でどんな生活を過ごしてもらいたいのかを共に話し合い、協力して一緒に考えるという関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、心身の状況や生活状況、家族状況を含めて話し合い、本人にとって必要な生活環境や他のケアサービスについて、担当ケアマネージャーとの情報交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や炊事等、本人が得意としていること、できることやできる可能性があることを一緒に行う中で、可能性を追求している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状況や生活状況を伝え、家族としてできる役割、関わりを一緒に考える様になっている。また、「かかのだより」や写真の掲示等で、実際の生活の様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親子で入居されている方がおり、不定期だが外泊しており、自宅近所の方の面会がある。またご夫婦で入居している方は、月に1、2回家族が来所され昼食を会食されている。	職場の同僚や昔住んでいた近隣の方の来訪がある。孫と美容院へ行っている。毎年担当職員と一緒に年賀状を作成し、投函する等大切な人との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中、通所利用の方々と体操やレクレーション、午睡後におやつ後の談話やぬりえ等を行い、職員が間に入り、代弁や会話の仲介を行って、孤立しないようにしている。午睡以外は、全員がホールで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者のご家族が、現在も畑の耕耘や野菜作りの助言をして下さり、また近況もうかがっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、全入居者について、全職員から利用者の言動や行動等、気づいた点を書面で提出、その内容について会議で検討し、共通理解を図っている。	「できない事を探すのは簡単、どう対応したらよいか」を話し合い、一人ひとりのコミュニケーションの取り方を共有している。険しい表情はトイレ、この場を離れたいとの思いを察したときは「行きましょうか」と声がけする。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活行動、会話の内容等をご家族へ伝えることで得られる情報、またご家族の知らない情報等、利用料の支払時にご家族とできる限り面談して情報交換を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態、食事や水分量、また排泄状況を確認すると共に、表情や行動を観察しながら、できることを模索し、やってみては評価するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月全職員から提出された気づいた事をカンファレンスで話し合い、その内容をご家族へ伝え、の意向やエピソードを伺い、その内容を加えて再度カンファレンスを経て計画書を作成している。	担当職員は毎月モニタリングを行っている。その内容を基にカンファレンスを実施し、対応内容に応じて計画書の見直しをしている。計画書はケアマネ、チーフ、医師、家族、担当職員の意見を踏まえて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に加えて、ケアプランチェック表を元に各担当が毎月の状況を計画作成担当者と共に確認し、継続や見直し等、サービス会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日課や業務の手順にとらわれず、個々の希望や心の動きに応じた個別対応を行い、周りがそれをフォローできる体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の防災協力員、畑作りのボランティアの方との親交、また犬の散歩途中に立ち寄り下さる方々、保育園児、公道で遊ぶ子どもたちと挨拶を交わしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、訪問診療の方4名、定期的に通院支援を行っている方2名については医師と直接情報交換を行い、その内容をご家族へ報告している。また、ご家族による通院の方については、必要に応じて医師宛にバイタルや生活の様子を書面で提出して情報交換を行っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診は家族が対応している。家族が行けない時は職員が同行支援している。受診結果は家族に報告し、介護記録に記載し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	登木市訪問看護ステーションと契約、毎週水曜日に診ていただいている。その際、受診時の情報やその経過を報告し、また医療面に関する相談助言を頂いている。時に看護師から主治医へ直接報告し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医師への情報提供、また退院時のカンファレンスに出席している。また、その後の経過についてご家族と情報を共有しながら医療機関との関係づくりに努めている。入院中は、面会や洗濯物の入れ替え等も協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、施設の看護介護状況および設備状況について説明を行い、施設でできることを説明している。また、状況に応じて今後の生活について話し合い、現在、特養へ入所申込をしている方が2名おられる。	看取り指針を成文化し、ホームで出来る事、できない事を入居時に本人、家族に説明している。医療行為が必要、入浴が困難等介護の度合いが高くなった場合は医師と家族、職員と段階的に話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の確認作業と連絡方法等については、周知している。その他、訪問看護師が来所時に助言指導を頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の8名の方に防災協力員として了承を受け、自動通報装置に登録、火災時は自動で連絡する体制があり、合同の訓練を毎年実施している。	夜間想定を含め年2回実施している。近隣住民は避難した入居者を誘導、見守り等協力がある。メガホンを使用し落ち着いて行動する等話し合っている。グループホーム協議会のブロック毎風水害訓練に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスにおいて、一人ひとりの性格や価値観を共有し、行動心理症状の他、場面場面の感情の動きに応じた理解とコミュニケーション方法を話し合い、理念に沿ったケアの実現を目指している。	トイレ誘導の声がけや居ないとわかっていてもノックし声をかけて入室する等、一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。呼び名はその方の希望に添って呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から、思いやこだわりを知ることがあり、個々の性格に応じてすぐに行動に移したり、内向的な方には一緒に決めたり対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険や健康を損なわない限り、できるだけ柔軟に対応している。一人ひとりの性格や趣向を把握し、場面毎に働きかけを行い、言葉や表情等から判断して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等の衣類を一緒に選んだり、鏡の前で整容の手伝いをしている。また、髪型もこだわりや生活習慣に応じて理美容院を定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモやタマネギ等の皮むき、味付けや盛りつけ、テーブル拭き等の準備、食後の片付けや食器洗い等、できる作業をそれぞれ分担して行っている。	献立は法人の栄養士が作成し、職員が調理している。職員も一緒に会話しながら楽しく食事をしている。敬老会は弁当、誕生日はケーキを入居者と手作りする。郷土食のはっと汁は喜ばれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人のデイサービスの栄養士が作成した献立に従い、個々に応じた調理をしている。また、1日の水分量を把握すると共に嗜好に応じてコーヒーやお茶等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや口腔清拭、義歯の洗浄を個々の能力に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を原則とし、排泄チェック表、また表情や行動から排泄のサインを把握して、個々の排泄状況に応じた支援をしている。	2名が布パンツ、他はリハパンで声かけをしてトイレで排泄している。3名の方は誘導なく自分でトイレに行く。職員の適切な声かけで失禁がなくなった。夜間は寝る前にトイレに行き、安眠を考えた個別支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期に応じて、できる限り下剤に頼らない自然排便を目指している。また、随時医師と相談して下剤の調整を行い、水分量の把握や運動等に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に入浴日を決めているが、気分が乗らない、入りたくない場合、時間帯を変更したり、入浴日を変更するなど、柔軟な対応をしている。	入浴は週2～3回を基本としている。デイサービス通所の方を含めた入浴の順番は、その都度話し合っていて決めている。ゆず湯や菖蒲湯等入浴を楽しめる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンが崩れない限り、気分に応じて自室や小上がりの畳等で休息したり、食事時間や入浴時間をずらしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容および副作用を周知し、表情や行動、生活状況の変化等の観察に努め、状況を主治医へ報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や食事の準備、洗濯物干しやたたみ方等、能力に応じて行っている。また、唱歌や歌謡曲等、昔の映像を流し、楽しんでいたと共に入居者間話題になるように働き掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物の同行は、随時行っている。また、チューリップまつりや菖蒲まつり等、近隣の催しもの見学に出掛けている。	花見、蓮まつり、紅葉狩り等季節を感じる外出は、年間行事として組まれ、法人の車でドライブしている。日常的にホーム周辺の散歩、生協等へ買い物、畑で野菜作り等をしている。ウッドデッキでの近隣の方とおしゃべり、犬との触れ合いは毎日の事である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて、家族の了解の上、少額の現金を所持している方が1名おります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望には、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オルゴールやオカリナ等の季節に合わせたBGMを流し、テレビに撮影した写真のスライドショーを写したり、それぞれが楽しく過ごせる様にしている。また、季節感ある装飾を施したり、活動写真を掲示して面会時の話題提供を行っている。	食堂は天窓から優しい光が入りとても明るい。温湿度とも適切に管理されている。軒下の干し柿や壁に飾られたちぎり絵に季節を感じる。廊下等随所に置かれたソファ、畳の小上がりがあり、一人になったり、仲良しと座ったりと自由に過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室で過ごす方がほとんどで、それぞれ居場所ができています。また、時間毎に居場所を変えている方もおります。今後、さらに居心地の良い環境、雰囲気作りに工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物を持ち込んだり、家族との写真を飾ったりしている。また、ぬりえ等の作品を掲示している。	ベッド、テーブル、椅子、洗面台、整理ダンスが備え付けられ、馴染みの家具を持ち込んでいる方もいる。それぞれ使いやすく配置している。家族の写真や作品を飾り、居心地の良い自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解るようにサインを取り付けたり、一息付けるように廊下にベンチを設置している。一人ひとりの可能性を引き出すように、言動や行動に注意深く見ていきたい。		